



後鳥羽院遷幸八百年
GOTOBAIN
SENKO 800th 1221-2021

島根県 隠岐 海士町 後鳥羽院遷幸

800年

2021
Sep&Oct
||
2022

島一周神輿渡御 & 隠岐神社大祭

令和3年(2021) 9月10.11.12日

令和3年(2021) 10月16.17日

つながる 800

後鳥羽院顕彰事業実行委員会
www.gotobain-kensyo.com



第82代天皇・後鳥羽天皇(後鳥羽院)が、日本史の転換点である承久の乱の後に隠岐諸島の海士町にお遷りになられてから、今年で800年。後鳥羽院が残された数々の文化と伝承を後世に継承するため令和3年(2021)・令和4年(2022)の2か年に渡って後鳥羽院をおまつりする隠岐神社とその周辺施設を主な会場としながら、800年記念行事を行います。令和3年は「神輿渡御」を9月、「隠岐神社大祭奉納行事」を10月に実施します。海士町の豊かな自然を味わいながら後鳥羽院に想いを馳せる行事に参加し、次の100年に後鳥羽院と隠岐の文化とつなぐべく、歴史の1ページと一緒に作りませんか。

海士町の島外にお住いの方で記念行事への参加を希望される場合には、「一般社団法人 海士町観光協会」へお問い合わせください。

Tel:08514-2-0101 Fax:08514-2-0102



oki-ama.org

20210423

島一周神輿渡御

9月



承久の乱の後に後鳥羽院は隠岐國の海士にお遷りになりました。島内の伝承の道をたどる陸渡御と、海士史上初となる島の外周を一周する船渡御を組み合わせ、2日間の行程での遷幸から800年の時が経った海士の姿を後鳥羽院の御霊にご覧いただけます。なお、今回の神輿渡御には、一日神領民として海士町民と一緒に参加することができ、800年をつなぐ人と人の手で隠岐神社を目指します。

島一周神輿渡御 主要日程

令和3年(2021) 9月

- 10日(金) 午後・受付(海士町観光協会・公式はっぴ授与)
・入島の儀(式内大社 宇受賀命神社、特別御朱印授与) ・結団式(Entô)
 - 11日(土) 午前・隠岐神社正式参拝(参拝者に公式ハチマキ、特別御朱印の授与)
午後・出御祭から御船までの陸渡御参加、御船随行船で島半周
夕刻・後鳥羽院御着船の地、崎地区の院ゆかりの史跡を巡る陸渡御に同行
・後鳥羽院の御旅所 三種神社参拝 ・賑わい屋台で交流
 - 12日(日) 午後・日ノ津港から海士中学校までの神輿担ぎ ・後鳥羽院御火葬塚祭典参列
・還御祭と祝い餅まき
夕刻・島の合同直会、解団式
- 参加費 40,000円

<神輿渡御は隠岐神社の神事のため、参加には次の定めがあります>
神領民として各種催しに参加するための経費・移動費・一部の食事代などを含んだ参加費です。なお、今回の行事に参加するための来島、宿泊、その他島に滞在中の各種オプションプランについては別途となりますので、海士町観光協会にお気軽にご相談ください。2日間の行事の服装は白を基調としたものとします。ついては、公式はっぴをはおり、各自準備の白シャツ、白ズボン、白靴下、白シューズを着用してください。※ファッションとしての過度の髪染め、アクセサリー類着用などは、担ぎ手としての参加をお断りします。隠岐神社、海士町、後鳥羽院顕彰事業実行委員会の撮影する写真・動画に写ること、またその写真・動画を隠岐神社、海士町、後鳥羽院顕彰事業実行委員会が使用することに同意する方のみ参加できます。

令和4年開催予定の記念行事



牛突き文化

海士へお遷りになった後鳥羽院は、行在所に向かう道中で、牛が角で小競り合いをする場面に出会います。後鳥羽院がその様子をご覧になり、およろこびになられたという伝承から、隠岐の伝統文化・牛突きが生まれました。このイベントでは、後鳥羽院もご覧になられた牛突き文化にふれる内容となるよう実施内容を検討しています。



和歌

後鳥羽院は生涯を通して和歌に情熱を注いでおられました。代表的なものとして「新古今和歌集」「遠島御百首」などが知られます。院の作風は後の世の歌人に大きな影響を与え、短歌や俳句といった歌文化の広がりにつながりました。800年記念では、後鳥羽院が詠まれた海士町の姿を現代の詩歌文化から読み解き、威厳がありつつも楽しく言の葉をつなぐ時間をつくる実施内容を検討しています。



裏千家献茶式

心の表れが作法となります。隠岐神社創建時に納められた昭和の名品を用い、神前に日本を代表する茶人による一服を献じる行事です。おもてなしの心を学ぶ機会になるよう、実施内容を検討しています。

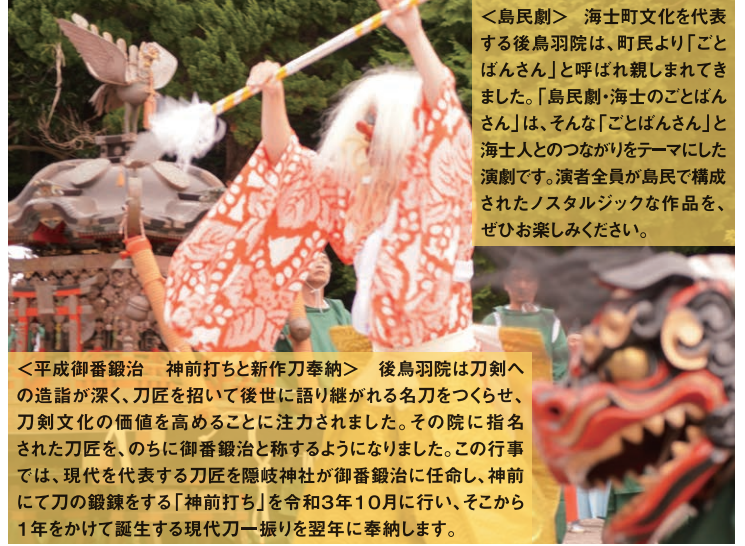
後鳥羽院をお祀りする「隠岐神社」

後鳥羽天皇を御祭神とし昭和14年(1939)、後鳥羽天皇隠岐山陵に隣接する地に創建。この年は天皇崩御から700年祭にあたった。明治初期までは後鳥羽天皇の墓所にあった後鳥羽院神社で、島民の手により祭祀が続けられていた。しかし、御霊を大阪・水無瀬神宮にお遷したことから、神社は取り払われ祭祀は中断していた。そのような中、700年祭を迎えるにあたり、島民を中心に後鳥羽天皇の祭祀を継承する神社の創建が働きかけられ、これを受けた当時の島根県知事を奉賛会長として県あげて造営が進められた。創建の奉納行事として、後鳥羽天皇ゆかりの和歌献詠、刀剣奉納、琵琶演奏、牛突きなどが実施された。



隠岐神社 10月

大祭



奉納行事
 [島民劇・海士のごとばんさん]
 [平成御番鍛冶 任命式・神前打ち]
 [隠岐島前楽]
 [100万人のクラシックライブ] 他

<島民劇> 海士町文化を代表する後鳥羽院は、町民より「ごとばんさん」と呼ばれ親しまれてきました。「島民劇・海士のごとばんさん」は、そんな「ごとばんさん」と海士人とのつながりをテーマにした演劇です。演者全員が島民で構成されたノスタルジックな作品を、ぜひお楽しみください。

<平成御番鍛冶 神前打ちと新作刀奉納> 後鳥羽院は刀剣への造詣が深く、刀匠を招いて後世に語り継がれる名刀をつくらせ、刀剣文化の価値を高めることに注力されました。その院に指名された刀匠を、のちに御番鍛冶と称するようになりました。この行事では、現代を代表する刀匠を隠岐神社が御番鍛冶に任命し、神前にて刀の鍛錬をする「神前打ち」を令和3年10月に行い、そこから1年をかけて誕生する現代刀一振りを翌年に奉納します。

隠岐神社大祭 主要日程

令和3年(2021) 10月

- 16日(土) 午前・受付(海士町観光協会)
・入島の儀(式内社 奈伎良比賣神社、参拝者に特別御朱印)
午後・隠岐の刀剣鑑賞
夕刻・島民劇「海士のごとばんさん」鑑賞 ・賑わい屋台で交流
 - 17日(日) 午前・800年記念大祭参列(参拝者に隠岐神社特製紋菓、特別御朱印など授与)
午後・平成御番鍛冶 任命式・神前打ちに参列
・100万人のクラシックライブ鑑賞 ・隠岐の神楽鑑賞 ・その他
- 参加費 40,000円

<大祭は隠岐神社の神事または奉納行事のため、参加には次の定めがあります>
神領民として各種催しに参加するための経費・移動費・一部の食事代などを含んだ参加費です。なお、今回の行事に参加するための来島、宿泊、その他島に滞在中の各種オプションプランについては別途となりますので、海士町観光協会にお気軽にご相談ください。800年祭典参列の際には、スーツとネクタイ着用、女性はこれに準ずる服装でお願いします。入島の儀の際は、上着を着用してください。隠岐神社、海士町、後鳥羽院顕彰事業実行委員会の撮影する写真・動画に写ること、またその写真・動画を隠岐神社、海士町、後鳥羽院顕彰事業実行委員会が使用することに同意する方のみ参加できます。

※写真はイメージです。※全ての行事等は新型コロナウイルス感染症、その他の事情で中止または変更となる場合があります。ご了承ください。